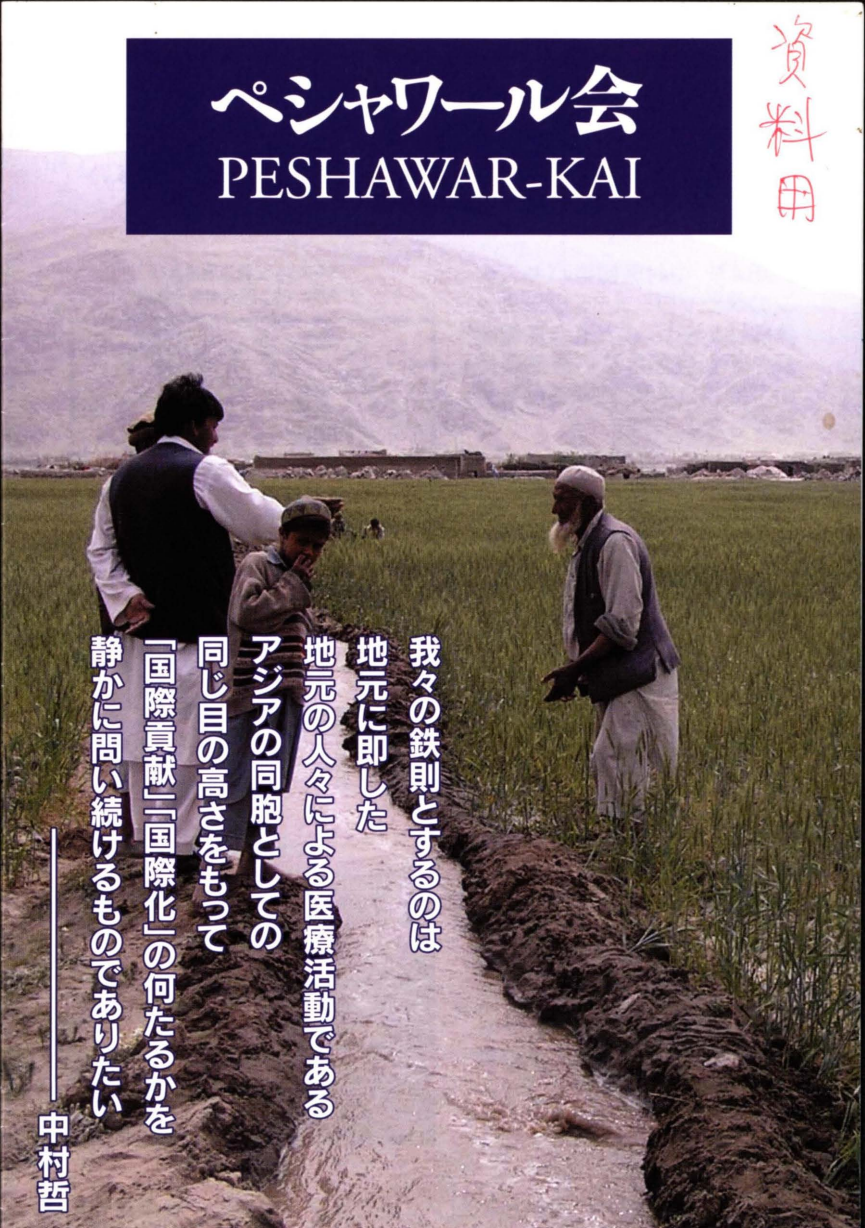


ペシャワール会 PESHAWAR-KAI

資料用



我々の鉄則とするのは
地元在即した
地元の人々による医療活動である
アジアの同胞としての
同じ目の高さをもって
「国際貢献」「国際化」の何たるかを
静かに問い続けるものでありたい

中村哲

ペシャワール会事務局

住所 〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル603号

電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373

Eメール peshawar@kkh.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

郵便物送付先 〒810-0001福岡市中央区天神3-4-7 福岡YMCA気付

郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

【会長】後藤 哲也

【現地代表】中村 哲

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在はパキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。

◎ 書籍紹介本 ◎

中村哲著及び編集



『丸腰のボランティア』

～すべて現場から学んだ～
中村哲編・日本人ワーカー著

1988年から2006年まで、医療、井戸掘り、農業、灌漑用水路建設など多岐に亘る事業に携わった日本人ワーカー47人の実践と葛藤の記録
(石風社 2006年刊)

- 『ペシャワールにて』(石風社 1989年刊)
- 『ダラエ・ヌールへの道』(石風社 1992年刊)
- 『アフガニスタンの診療所から』(筑摩書房 1993年刊)
- 『医は国境を越えて』(石風社 1999年刊)
- 『医者井戸を掘る アフガン旱魃との闘い』(石風社 2001年刊)
- 『ほんとうのアフガニスタン』(光文社 2002年刊)
- 『辺境で診る辺境から見る』(石風社 2003年刊)
- 『医者よ信念はいらぬ命を救え』(羊土社 2003年刊)
- 『中村 哲さん講演録 「平和の井戸を掘る」アフガニスタンからの報告』(編集・発行:ピースウォーク京都)
- 『アフガニスタンの診療所から』(筑摩文庫 2005年刊)
- 『空爆と「復興」—アフガン最前線報告』(石風社 2004年刊)

福元満治著

『伏流の思考 私のアフガン・ノート』(石風社 2004年刊)

丸山直樹著

- 『ドクター・サーブ 中村 哲の15年』(石風社 2000年刊)
- 『アフガン乾いた大地 戦火の中の民』(NHK出版 2001年刊)

◆ご購入については、書店又は各出版社に直接お問い合わせください◆

◆現地ワーカー募集◆

現在、日本人ワーカーが、パキスタンとアフガニスタンの医療、会計事務、水計画、農業などの部門で活動しています。
男性ワーカー(現地スタッフ管理業務)と男性看護師を募集します。
ボランティアで2年以上活動でき、日常英会話ができる方を希望します。
詳細は事務局までお問い合わせください。

◆事務局から◆

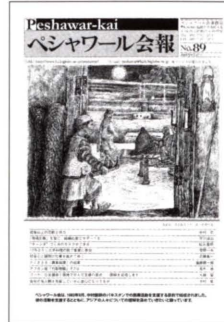
事務局は福岡にあります。約20人のボランティアと1人の専従が活動しています。寄付された方へのお礼状書き、会報の発送、広報活動、現地ワーカーの送り出し等を行っています。お手伝いできる方を募集していますので、ぜひ事務局へご連絡下さい。作業は月曜、水曜、金曜の午後に行っています。(水曜は夜も作業しています。)

心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されているN G Oです。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などを問わずどなたでも入会できます。



*会員の方には、現地の活動等の報告記事を書いた会報を年4回お送りしております。

年会費

学生会員	1,000円より
一般会員	3,000円より
維持会員	10,000円より
団体会員	30,000円より

(会計年度は4月1日～翌年3月31日)

*会費以外の寄付も随時受け付けております

会費・寄付などの納入方法

郵便払込口座 01790-7-6559
加入者名 ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出しください。

※ご入会の際は通信欄に「入会」と明記して下さい。

会報の発送に年間数百万円以上かかっています。未使用切手・書き損じのハガキ等をお送りいただければ幸いです。
(*古切手は扱っておりません)

ペシャワール会
PESHAWAR-KAI

資料用



我々の鉄則とするのは
地元に即した
地元の人々による医療活動である
アジアの同胞としての
同じ目の高さをもって
「国際貢献」「国際化」の何たるかを
静かに問い続けるものでありたい

中村哲

ペシャワール会事務局

住所 〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル603号
電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373
Eメール peshawar@kkh.biglobe.ne.jp
ホームページ http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/
郵便物送付先 〒810-0001福岡市中央区天神3-4-7 福岡YMCA気付
郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

【会長】後藤 哲也 【現地代表】中村 哲

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在はパキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。

ペシャワール会のあゆみ

〈誰もが押し寄せる所なら我々が行く必要はない。誰も行かないから、我々がゆくのだ。〉(『ダラエ・ヌールへの道』より)

1984年、中村医師はパキスタンのペシャワール・ミッション病院に赴任し、まともな医療器具も手術施設もない医療環境の下で、10年間、診療活動を続けました。

1986年よりアフガン難民への国内診療を開始し、更に、アフガニスタンにも活動範囲を広げ、1991年12月、アフガニスタン国内の活動拠点としてダラエ・ヌールに最初の診療所を開設しました。以来、アフガニスタン北東部の3診療所を中心に、山岳無医村での医療活動を始めました。

1993年、ダラエ・ヌールで悪性マラリアが大流行し、治療薬の資金を確保するため、大々的な募金活動を展開しました。全国から2000万円以上の寄付が寄せられ、2万人もの患者の命が救われました。

1998年には恒久的な基地病院としてPMS(ペシャワール会医療サービス)病院をペシャワールに建設しました。

2000年、大干ばつに見舞われたアフガニスタンの村々で水源確保事業を開始し、井戸の掘削を中心にカレーズ(伝統的な地下水路)の修復を図りました。

2001年10月には「アフガンのいのちの基金」を設立し、空爆下、アフガニスタン国内避難民への緊急食糧配給を実施し、2002年2月までに15万人に配給しました。現在は、その基金をもとに、アフガニスタン東部で灌漑水路建設を含む総合的農村復興事業「緑の大地計画」を進めています。



PMS病院



ソルフロッド郡での食糧配給

医療事業

ペシャワールのPMS病院(70床)を中心に、パキスタン山岳部ラシュトに1カ所、アフガニスタン東部山岳部ダラエ・ヌールに1カ所の診療所を設け活動しています。

ハンセン病を柱とする医療活動を続けながら、アフガン難民はじめ貧困層の診療を行っています。

事業は治療にとどまらず、現地スタッフの医療教育も行っています。女性患者が医師(男性)にさえ肌を見せないイスラム的風習の中で、日本人女性看護師によるケアも行っています。

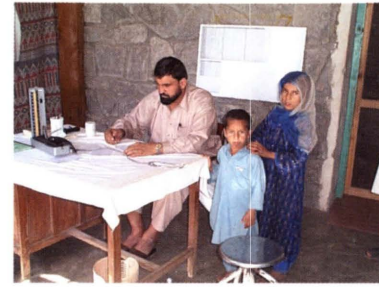
- 総診療数: 約87,000人(2006年度)
- 医療事業スタッフ: 75人 (2007年7月現在)

緑の大地計画

2000年7月からアフガニスタン国内の診療所で大干ばつによる水不足が原因で、赤痢患者が急増しました。

そこで、同年8月より、医療活動の一環としてアフガニスタン東部一帯で水源(井戸・カレーズ)確保事業を開始し、空爆下も休みなく続けてきました。

2002年1月に、「緑の大地」計画を発表、これまで継続してきた、医療活動、飲料水源確保に加え、灌漑水路建設に着手し、自給自足できる農村の復興を目指して、さらに長期的かつ大規模な事業を展開しています。



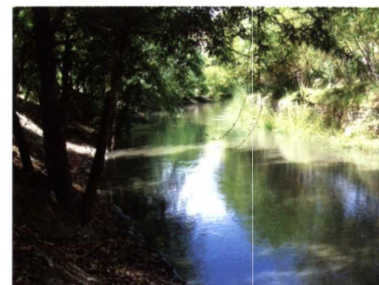
ダラエ・ヌール診療所



PMS病院で検査中の医療スタッフ



完成した井戸から水を汲む子供達



水路脇の護岸用柳も成長

水利事業

《クズクナル地域》

農業に一番必要な水を確保するために、ダラエ・ヌール渓谷を皮切りにカレーズ(地下水路)の復旧が始まりました。砂漠化した中流域で手がけた38ヶ所が復旧でき、それによって約1000家族(約1万人)が自分の村に帰ることができました。

2003年3月、水量の豊富なクナル水系の水を利用した灌漑用水確保計画がスタートし、2007年4月には第一期全長13キロメートルの用水路が完成しました。

この用水路は日本の伝統工法である柳技工と蛇籠工で造成され、水路沿いには125000本の柳が植えられています。

この水路によって直接灌漑される農地は約900ヘクタール、下流域への水路にも送水可能で合わせて6000ヘクタールの農地への灌漑が可能になりました。現在第二期7キロメートルに着手しています。

- 井戸掘削数: 1500カ所(2007年3月現在)
- 水利関係臨時雇用職員: 134人、作業員約300人(2007年3月現在)

農業計画

「自給自足が可能な農村」の回復のためのモデル地区として、ダラエ・ヌール渓谷を選びました。この地区は最も貧困な農村である上に、干ばつ被害で一時は18,000人の難民を出した所です。

ここに地元の人の協力を得て試験農場(約8000m²)を作りました。乾燥に強い品種の作付け、土壌の改善などに力を尽くして生産量を上げるよう、また、ケシに代わる換金作物の研究、農業を軽視せぬ教育、農具の改良なども行なっています。

さらに、アフガニスタンでは乳製品が生活に不可欠であるため、総合的な家畜業の育成に力を入れています。

- 農業・畜産関係: 2人(2006年10月現在)



砂漠化した状態(2002年)



用水路が伸びて農地が広がる(2006年9月)



ダラエ・ヌールの試験農場で収穫したサツマイモ

中村 哲 なかむらてつ

ペシャワール会現地代表。PMS総院長。1946年福岡市生まれ。九州大学医学部卒業。国内の診療所勤務を経て、1984年パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールに赴任。らい(ハンセン病)を中心としたアフガン難民の診療に携わり現在に至る。

心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されているN G Oです。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などを問わずどなたでも入会できます。

*会員の方には、現地の活動等の報告記事を書いた会報を年4回お送りしております。



年会費

学生会員	1,000円より
一般会員	3,000円より
維持会員	10,000円より
団体会員	30,000円より

(会計年度は4月1日～翌年3月31日)

*会費以外の寄付も随時受け付けております

会費・寄付などの納入方法

郵便払込口座 01790-7-6559

加入者名 ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出しください。

※ご入会の際は通信欄に「入会」と明記して下さい。

会報の発送に年間数百万円以上かかっております。
未使用切手・書き損じのハガキ等をお送りいただければ幸いです。

(*古切手は扱っておりません)